

科学博物館ニュース速報

No.5 February 1, 2013

第5号 2013年2月1日

ありがとう中澤先生

科学博物館長 梅田倫弘

博物館協力教員として本館の運営にご尽力いただいていた中澤先生が、2月1日付けで工学部准教授としてご栄転されることになりました。工学部附属繊維博物館から科学博物館への全学化、そして今般の耐震改修、リニューアルオープンと博物館の激動期の屋台骨を時々の館長とともに支えていただきました。とりわけ今年度の4月に、建物自体は改修中でどのような博物館になるのかも知らなかった新米の館長を陰に陽に支えていただき、リニューアル記念式典を大過なく行えたのは、中澤先生がおられたからだ感謝申し上げます。今号では、前館長の豊田先生よりお言葉をいただきましたので、ご紹介するとともに、中澤先生の博物館の思い出をミニ特集させていただきました。

中澤先生の

ご栄転にあたって

前館長 豊田昭徳

平成19年より約6年間に亘り博物館活動を担ってこられた中澤先生が本来の研究のお仕事にご栄転されるとのこと、心よりお喜び申し上げます。

中澤先生は、科学博物館の前身の工学部附属繊維博物館の専任教員となられた後、朝倉館長のご指導のもと、博物館の全学化による新たな姿への変身に貢献されました。また、全学組織となった博物館の学芸員課程の充実を達成されるとともに、学芸員課程の高度化への道筋もつけられました。さらに、耐震問題で休館の危機にあった博物館本館を将来に向け発展させるべく、リニューアル計画の案画と実行に獅子奮迅の活躍をされ、概算の獲得および膨大な作業量が伴うリニューアル工事を成功裡に成し遂げられました。

リニューアル後の科学博物館は、外観や内装が変わっただけでなく、新たなコンセプトと活動方針のもと、順調に未来に向かってスタートしています。これも研究と博物館という二足のわらじを履くという難しい環境下にも拘らず、中澤先生の博物館および博物館活動に対する深い造詣と熱い思い入れとがあって、はじめてなしたことと思います。梅田館長はじめ教職員の皆様方は大変だと思えますが中澤先生の残された遺産を十二分に活用され、博物館および東京農工大の一層の発展に貢献されますよう、切に希望いたします。(本学名誉教授)

博物館との思い出

中澤靖元

平成19年6月、私は博物館専任教員として当館に着任しました。当時の博物館は、6月とは思えない程ひんやりと涼しく、暗く、人のいる気配がなく、微妙な臭いが立ちこめていました。それまで本学の博物館にはほとんど訪れたことがありませんでしたので、不安でいっぱいのスタートだったことを思い出します。

以来5年半にわたり、責任ある数多くの事業に参加させて頂きました。中でも昨年行った、博物館本館の耐震改修・機能改善工事は、最も印象に残る事業となりました。本事業では、新たな博物館のコンセプトの設定から始まり、展示室や収蔵庫をはじめとした各部屋のレイアウトの検討、博物館内の資料や大型機械の移設、リニューアル後の資料搬入、展示作業、開館準備作業など、数え切れないほどの課題がありました。非常に過酷な毎日でしたが、今となっては、これほどの貴重な経験をさせてもらえたことは、本当に幸せな事だと思っています。自分がこの博物館の一員として働く事ができたこと、そして、新生博物館として第一歩を踏み出したその瞬間に立ち会えたことが大変嬉しく、自分の中でも大きな財産となるだろうと思っています。

またこの5年間、数多くの先生方や職員の方々に支えられてきました。博物館運営委員会、府中・小金井博物館委員会の先生方、高木先生や前任の松島先生、総務部総務課広報室の皆様、博物館事務の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございます。また、在任中に館長でありました、3名の先生方には、言葉では言い尽くせないほどの感謝をしています。

私が着任した当時の館長である、朝倉哲郎先生は、博物館の全学化にご尽力され、現在の博物館ビジョンの基礎をお築きいただきました。豊田昭徳先生は、耐震改修工事の計画について、私ども教員の意見を尊重しながらリニューアル工事の陣頭指揮を執って頂きました。また、現館長の梅田倫弘先生は、これまでにない斬新なアイデアを具体化し、博物館の活性化に全力で取り組んで下さっています。3名の歴代館長がいらっしゃらなければ、今の博物館も、今の私もなかったと思います。本当にありがとうございます。

今後、この大好きな博物館がますます発展することを心より願っています。5年間、ありがとうございました。

シャルドンネギャラリー始動

科学博物館 高木愛子

当館では、多くの方に博物館をご利用いただきたく、世界初の人工繊維「シャルドンネ人絹」が展示されている2階階段ホールを「シャルドンネ」ギャラリー」として、学内向けの貸し出しを開始しました。

そしてこの度、ギャラリーでの最初の展示として農工大写真部による「新年展」(1月8日～1月12日)、続いて農工大旅と鉄道研究会による「旅鉄写真ベストコレクション展」(1月16日～1月31日)が開催されました。来館者の皆様も、普段と異なる展示に足を止め楽しまれていた様子です。2月8日からは当館友の会サークル作品展の会場の一つとして色とりどりの工芸作品が並び、また違った印象となることでしょう。

ギャラリーには、ピックアップとライティングダクトを設置し、展示用ワイヤーとスポットライトの貸し出しも行っております。是非さまざまな展示や発表の場としてご利用いただきたく、お気軽に博物館までお問い合わせください。

博物館展示の感想

農工大写真部部長 大原正行

私たちは毎年1月に学内にて新年展と称した展示会をおこなってまいりました。科学博物館がリニューアルし、シャルドンネギャラリーを開設するという連絡を頂き、これを機会に博物館で展示をするのは面白いのではと思い、急な話でしたが対応していただき無事開催することができました。

準備が年末であったこともあり綿密な準備ができなままの開催になってしまいました。しかし、私たち部員の作品が博物館の来場者に少しでも観て頂けたこと、私たちの展示がシャルドンネギャラリー初の開催ということで、達成感とともに、とても嬉しく思っています。展示期間が短かったことや作品数があまり多くないなどの課題も見つかりました。これらは今後の活動に生かしていきたいと思えます。次の機会がありましたら是非私たちの作品に触れてほしいと思っています。ありがとうございました。



農工大旅と鉄道研究会 関口千春

昨年11月の学園祭での旅と鉄道研究会の展示を見に来てくださった館長の梅田先生のご提案で、今回の「旅鉄ベストコレクション展」が実現しました。歴史ある科学博物館の一角を借りて鉄道写真の展示が出来たことは、本会にとっても大きな一歩となりました。

展示されていた写真は部員が北は北海道、南は徳島と全国各地で撮影したもので、中には今ではもう見られなくなってしまった風景を撮ったものもありました。東京近郊を走る車両は、見覚えのある方も多かったのではないのでしょうか。これを機に、日本中で様々な型の車両が活躍していることを知っていただければ嬉しいです。

シャルドンネギャラリーはこじんまりとしていながらもきちんとした照明の設備もあるので、こういった展示会を催すのに向いている場所だと思います。今後も様々な団体・グループの作品展示の場として活用されていくことを期待しています。



学生が博物館を支える形

～博物館学生支援団体設立に向けて～

MUSSET会長 川島実紗

私たちは、12月より博物館学生支援団体設立に向けて活動を行っています。団体を設立しようという考えに至ったとき、たくさんの不安を抱いていました。このような団体を作ったとして、賛同してくれる学生が集まらないのではないかと、まだ不安定なこの団体がちゃんと活動できるのかということでした。

前者の不安は、活動を始めてすぐに解消されました。学生を対象とした説明会を何度か行ったところ、今の仲間たちに出会うことができました。彼らは皆とても意欲的で、まだ基盤のしっかりしていないこの組織を一緒に支えてくれる優秀な学生たちです。

今回この組織を設立するにあたって、いきなり大きな団体を設立するのではなく、初めにトライアル期間として少人数で活動することで団体の基盤を作り上げ、その後賛同者を集めることを目標としています。

現在、団体は“MUSSET”（ミュージット）と名前を定め、トライアル期間として活動しています。当初の目的である博物館の展示説明の練習をする傍ら、科学博物館のイベント展示を企画したり、他大の博物館への視察を計画中です。

後者の不安はまだ完全にぬぐい去ることはできていません。しかし私は今の仲間たちを中心に、この団体を、博物館にとっても学生にとってもかけがえのない存在に作り上げたいと思っています。

ミュージアムグッズ販売開始

科学博物館 高木愛子

当館では、昨年10月のリニューアルオープンに併せ、博物館の利用者サービス、普及事業の向上のため、ミュージアムグッズを作成しました。10月2日のリニューアル記念式典にて参加者に配布いたしましたので、既にご存じの方も多いかと思います。

遅ればせながら1月8日より一般販売を開始しました。現在は、当館の主要コレクションの一つである「蚕織錦絵」をモチーフとしたハガキ10種とクリアファイル5種、自作できる組ひもストラップ製作キットを販売しています。今後も当館ならではのグッズを増やしていきたいと考えています。ご来館の記念や農工大のお土産として、是非お買い求めください。

- ・ハガキ10種 各100円
- ・ハガキ10種セット 800円
- ・クリアファイル5種 各200円
- ・クリアファイル5種セット 800円
- ・組ひもストラップキット 300円

※ミュージアムグッズコーナーの券売機にてご希望商品券をご購入いただき、受付にて商品とご交換下さい。



入館者状況

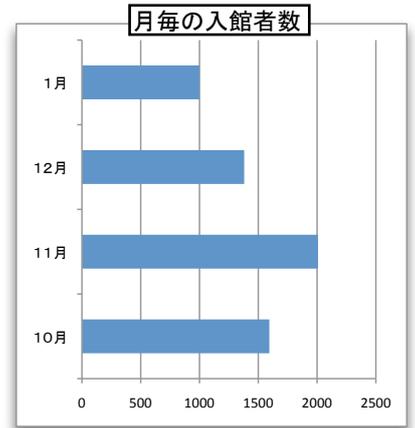
博物館事務 北川和幸

リニューアルオープン後の月ごとの入館者状況をグラフに示します。累計は5982名となっています。12月及び1月の入館者は概ね1日平均66名の入館者がありました。やはり、サークル及び技術研究会の活動日である火曜日と土曜日に利用者が多くなっています。10、11月に比べて減少傾向にありますが、年末年始を挟み開館日数は10月及び11月と比べると減っているため、やむを得ないかと思えます。

そんな季節柄とは言え、シャルドンネギャラリーを開設し、「写真部」・「旅と鉄道研究会」の写真展示を開始しました。今後も続々とシャルドンネギャラリーを活用する構想が上がってきています。また、昨年末発行された「武蔵小金井Walker」（角川マガジン発行）という雑誌の見開き2ページに当館の紹介記事が掲載されました。その刊行後には、本館に興味のある方（京都造形芸術大学在学学生）が遠方からお越しになり、数字に

は表れない入館者の濃さを感じました。また、1月に入ってから在学学生の入館が増えたと感ずるところです。全く嬉しい限りです。ただ、中には、展示への興味が先だってしまうのか、受付で入館記載されずに、そのまま鑑賞というケースも見受けられます。どうぞ、受付で『入館者記録帳』に記載を済ませてからご鑑賞下さい。

先にご上げた『シャルドンネギャラリー』、『在学学生入館倍増計画』は、館長始め学芸員の先生方の科学博物館活性化の取り組みの成果です。今後、入館者数の増加を期待したいと思います。



博物館活動日誌

★博物館Facebookにアクセスを！

<http://www.facebook.com/tuatmuseum>

★企画展開催中！

「農工大発 イノベーション・シーズ展
一人と環境の未来を拓くテクノロジー」
会期：平成24年11月10日～平成25年3月2日

★子供科学教室

「木を知ろう！バードコールづくり」
講師：佐藤敬一先生（農学部）
会期：平成25年2月2日 10時～12時

★特別展

「第31回東京農工大学科学博物館友の会サークル作品展」
会期：平成25年2月8日～14日（日曜日臨時開館）

「シルクロードからの贈り物ーウズベキスタンにおける養蚕技術交流ー」
会期：平成25年3月16日～4月13日
※3月30日イベント計画中！

★繊維技術研究会講演会

「撚りのおはなし」
講演者：壁矢久良
日時：平成25年2月19日 10時～12時

「改めて“ガラ紡績の世界を考える”」

講演者：徳山則
日時：平成25年3月19日 10時～12時

★その他

「春のお花見弁当フェア2013」
会期：3月23日～4月7日
主催：小金井市（本館も協賛）

「科学博物館ニュース速報」第5号

- ◆発行日 2013年2月1日
- ◆編集 博物館ニュース編集委員会
梅田倫弘・高木愛子・鎌田忍・北川和幸
- ◆発行 東京農工大学科学博物館